

第一言語／継承日本語話者である大学生のための日本語読解教育 —2016 - 2017 特別日本語教育読解授業報告—

金山 泰子 藤本 恭子

1. はじめに

社会経済の変化やグローバル化を背景として、海外に居住する学齢期の子どもが増加すると共に、大学生のそれまでに受けた教育や言語の背景も多様化している（岡村，2017）。それ故、継承日本語教育に関する調査、研究および実践や課題の共有に対するニーズは益々高まっていると考えられるが、大学生を対象とした継承語／第一言語教育については、小澤他（2015）などの実践報告があるものの僅少である。そこで本稿では、継承語母語話者を対象とした読解教育の実践と、実践から浮かび上がってきた課題について報告すると共に、今後の課題について検討する。

2. ICU の日本語プログラムの理念と日本語特別教育について

ICU の日本語教育プログラムは「多様な文化価値観の中で、相対的な視点を持ち、社会に貢献できる人材の育成を目指す」ことを教育理念として掲げており、外国人留学生を対象とした日本語プログラムと、継承語母語話者と対象とした日本語特別教育（Special Japanese, 以下 SJ）プログラムの 2 つのトラックに分かれる。SJ は、「大学生として必要な漢字語彙力、読解力、文章構成力、発表力を増し、日本語特別教育 3 の修了時に大学生活を支障なく行っていける日本語運用能力を身につける」（ICU 日本語教育課程，2015）ことを目標とした、大学の初年次教育という側面を持つ、思考力育成と言語習得を目指した内容重視型のコースである（小澤他，2015）。SJ のプログラムは大きく分けて、基礎コース、漢字コース、SJ コースの 3 つのコースがある。「基礎コース」は、日本文化や習慣を理解し、日本語を第一言語／継承語として運用するために必要な基礎知識とスキルを学ぶコースで入学時初学期である秋学期に履修する。漢字コースはレベル別に 3 つあり、卒業までに 3 つのレベルを修了することが課せられている。SJ はイントロダクションから SJ1～3 まで 4 レベルあり、1 学期に 1 レベルずつ履修し、SJ3 まで修了することが課せられ、大学生として必要な漢字語彙力、読解力、文章構成力、発表力を習得し、SJ3 修了時に大学生活を支障なく行っていける日本語運用能力を身につけることを目標としている。本稿では、筆者らが担当した 2016 年冬学期 SJ2、および 2017 年春学期 SJ3 の読解授業について報告する。

3. クラスの概要

3-1. 履修学生の背景：特徴、問題、課題

本クラスを履修した学生は、2016 年秋学期に SJ1 でスタートし、春学期に SJ3 で SJ コースを修了した。表 1 は履修学生が大学に入学するまでの教育背景を示したものである。¹ なお、表中の「インター」とは「インターナショナルスクール」の略である。

表 1：履修学生の教育背景

	小学校	中学校	高校
A	小2までハワイ現地校⇒国内インター	国内インター	国内インター
B	国内一般校	アメリカ現地校	アメリカ現地校
C	アメリカ現地校	中2までアメリカ現地校⇒国内インター	高1まで国内インター⇒アメリカ現地校
D	小4まで国内一般校⇒イギリス現地校	イギリス現地校	イギリス現地校
E	小2までイギリス現地校⇒シンガポールインター	シンガポールインター	シンガポールインター
F	オーストラリア現地校	オーストラリア現地校	オーストラリア現地校
G	オーストラリア現地校	オーストラリア現地校	オーストラリア現地校
H	国内インター	国内インター	国内インター
I	アメリカ現地校	アメリカ現地校	アメリカ現地校

上記のように学生の教育背景は多岐にわたっているが、ほとんどの学生が小中高の時期を海外の現地校、海外または国内インターナショナルスクールで教育を受けている。その中で、両親や祖父母とは日本語で話し、友人や兄弟姉妹とは英語で話すという言語環境で過ごした学生がほとんどであった。学生の様子を観察しても、授業中は日本語だけで話しているが、休憩時間になると日本語と英語を織り交ぜながら話していることが多かった。

移民の増加やグローバル化を背景に、サードカルチャーキッズ (TCK) と呼ばれる子どもが注目されるようになってきている。ポロック他 (加納他訳, 2010) はサードカルチャーキッズを、「両親の国の文化を第一文化、生活している国の文化を第二の文化とした場合、そのどちらでもないはざまの文化、つまり第三文化の中で人格形成に影響を及ぼす時期や思春期を過ごしている、あるいは過ごした子どもたち」と定義し、その難点の一つとして、自国文化に対する知識の欠如を挙げている。本クラスを履修した学生は、この定義に当てはまる学生も多く、日本の文化や歴史、政治等、日本の大学生なら当然知っていると期待される知識を身につけていない学生もいた。

こうした学生たちの背景を踏まえて、SJ のプログラムでは入学初学期に「基礎コース」を必修科目として履修し、日本の文化、習慣、歴史、社会を理解するための基本知識を一通り学ぶことになっている。² しかしながら、「基礎コース」で学ぶ知識は一般的事実、客観的事実が多く、1 学期 (10 週間弱) という短い期間でもあり、学んだ知識を定着させ、活性化させるには不十分である。そこで SJ2 の読解授業では、基礎コースで学んだ基本知識を文脈の中でとらえて活性化させることを目標にコースデザインを試みた。読み物には書き手の視点があり、コンテクストがある。ある人の解釈を学ぶことにより、自分の考えと比較し、疑問を持つことによって、議論が生まれ、問題意識が生まれ、自身の問題と関連づけて考えられるようになることが期待できる。そのため、まずコース開始時に「どのような内容の読み物を読みたいか」ということについて学生と対話の時間

を持ったところ、以下のような声が聞かれた。「今の日本の習慣や文化や思考は、どのような過去の歴史の影響で出来上がってきたのか、なぜこういう考え方をするのか、なぜこのような表現、文化、習慣があるのか、ということを知りたい」「今、日本で何が起きているのか、どういう状況なのか、実はよくわかっていない」「過去のことも大事だけれど、これから日本がどうなっていくのかも興味がある」というような意見であった。これらの意見を総合して、SJ2 では読解を通して「日本の過去・現在・未来」について学び考えられるような教材を選ぶこととした。以下では、読解授業の実際を紹介する。

3-2. 2016 年冬学期 SJ2 読解授業

授業のスタイルとしては、予習型で精読するタイプと速読を通して即応力を養う即時型、また教師主導型と学生主導型をバランスよく配分するように心がけた。具体的には、「過去」「未来」をテーマとした教材については、教師が読み物を選びワークシートを予習型で課し、「現在」のテーマについては、学生たちが「日本の現在」に関するデータやグラフを含む新聞記事を選び、クラス内で速読し、その日の担当学生が記事の内容について発表すると共にディスカッションをリードする、という形をとった。

3-2-1. 予習型読解授業

表 1 は予習型読解教材の一覧である。

表 1 2017 年冬学期 SJ2 読解教材

読解 1	「被災地の視線 五輪喜べない三つの理由」(朝日新聞 2013 年 10 月 1 日)
読解 2	『東と西の語る日本の歴史』網野善彦 講談社学術文庫 2005 年
読解 3	『日本史再発見』板倉聖宣 朝日選書 1993 年
読解 4	『昔話と日本人の心』河合隼雄 岩波書店 1982 年
読解 5	『新婚さん』吉本ばなな 新潮文庫『とかげ』所収
読解 6	「岐路に立つ電力文明」(朝日新聞 2011 年 4 月 4 日)
読解 7	『あと 20 年でなくなる 50 の仕事』水野操 青春出版社 2015 年
読解 8	『ネット依存症』樋口進 PHP 新書 2013 年
読解 9	「1 千万円で愛犬『復活』 韓国研究所の“クローンビジネス”」 (http://news.yahoo.co.jp/feature/478)
読解 10	「外国人に国をひらく 元警察庁長官・国松孝次さん」 (朝日デジタル 2017 年 2 月 1 日)

上記のうち読解 1 はウォーミングアップとして選んだ教材であるが、コース前半では日本社会の過去を扱った教材(読解 2～5)、後半では日本の未来を扱った教材(読解 6～10)となっている。

ここでは『東と西の語る日本の歴史』(網野善彦)を扱った授業の概要を紹介する。教材として扱った部分は、上掲書の「一 はじめに」にあたる部分の一部(19～24 ページ)で、「くらしのなかの東と西」「単一民族説への疑問」という小見出しのついた 2 節

である。前節では、山梨生まれの筆者が名古屋赴任中に経験した東と西の食文化や言葉の違いにふれ、後節では、前節を踏まえて、日本人が「斉性を持つ単一民族」(p.24)であるという見方から派生する歴史観や差別問題について言及している。学生らはこの教材を読み、ワークシートを完成させてくるのが予習課題となっている。ワークシート(添付資料1)では、「縄文時代」「弥生時代」「古墳時代」「律令国家」「単一民族」「複合民族」「雑種民族」などの用語を調べ学習させた上で、本文の内容理解を促す質問を設定し、ディスカッションとして身近な食文化、生活習慣、言葉の違いについてクラスメートと意見を交換する、という流れになっている。自らの身近な体験や知識から日本社会の多様性を実感させ、そこから筆者が提起する歴史問題、差別問題へと意識を向けさせることを目指した。

SJ2の学生たちは前学期の「基礎コース」において、日本社会の民族構成について構成要素や人口比等ある程度の知識を学んできている。しかし、そこでは知識の導入にとどまり、そこから問題意識や議論を深める余裕がない。一方『東と西が語る日本史』は、西と東でどれほど文化や習慣が違い、日本社会にどれほど多様性があるかを伝え、「単一民族である」という考えが長い間定着していたことから起こった問題を提起している。このようなコンテクストがあって初めて、学生らは学んだ知識を自らの体験と関連付けて活性化させることができるようになると思われる。

3-2-2. 新聞発表

表2は学生が選んだ新聞記事の一覧である。

表2 2017年冬学期 SJ2 新聞発表記事一覧

見出し	新聞	年月日
留学生の就職過去最多	東京新聞夕刊	2016年11月16日
情報環境激変 読書のススメ	東京新聞	2016年12月7日
死刑囚増 収容長期化進む 高齢化も課題	朝日新聞	2016年12月30日
新成人123万人 2年ぶり増 酉年生まれは最小	日本経済新聞	2016年12月31日
難民宿泊制度 15年度の利用者ゼロ	東京新聞夕刊	2016年12月31日
トランプ氏 トヨタのメキシコ新工場を批判	朝日新聞	2017年1月6日
自殺2.2万人下回る 昨年原因「健康問題」最多	朝日新聞夕刊	2017年1月20日
乳がん 肥満や晩産化で増加 初期なら手術でほぼ完治	読売新聞夕刊	2015年11月5日
アレppo避難再開 国連監視団派遣 安保理が決議採択	日本経済新聞	2016年12月20日
梅毒感染 20代女性で急増 42年ぶり高水準	朝日新聞	2017年1月13日
テストティー「バレンタイン」に関する10～20代の意識調査を発表!	読売新聞	2017年2月7日
古着や藻から航空燃料	読売新聞	2017年2月13日

担当学生は、新聞記事（過去3ヶ月ぐらいのもので、グラフ・図表などのデータがあるもの）と単語リストを準備してくるようになっていた。クラスでは記事を音読し、内容のまとめと意見を述べ、学生からの質問に答える。さらに記事に関連した内容についてのディスカッショントピックを提示し、ディスカッションをリードすることが課せられた。

この新聞発表の活動を通して、自分で記事を選ぶことにより、学生自身が興味のある「現在」について自発的に学ぶことができた。教師が選ぶ教材は、ややもすると硬くなりがちで教師の好みが反映されて偏りが出てくる可能性があるが、学生が順番で担当することで、バラエティのある話題が提供された。また、データとグラフがある記事を指定したことにより、客観的事実と自らの考えを比較することができた。学生が自身の興味に沿って責任を持ってクラスの進行に関わることができたことも成果の一つであった。

このように、SJ2では読み物を通じて日本について考え、理解を深めるといった一定の成果は得られたように思われる。しかし、学期始めにテーマを明示したことにより、学生が自発的にテキスト間の連関性を発見するという学び、テキストとテキストを関連づけて議論を深めるといった学びにまでは至らなかった。そこで、次学期のSJ3では敢えてテーマを明示することなく読解授業を進めることとした。

3-3. 2017年春学期 SJ3 読解授業

SJ3では、「境界」という共通テーマを持つ読解教材を選んだが、敢えてテーマを明示しないことで、学生がテキスト間の連関性を自ら発見し、既知の情報を活用しながら思考を深めていくことを狙いとした。表2は教材の一覧である。一番左の欄に、それぞれの教材が持つ「境界」にかかわるトピックを記した。

表2 2017年春学期 SJ3 読解教材一覧

	教材	「境界」に関連するトピック
読解1	「コンテキストの『ずれ』」(平田オリザ著『わかりあえないことから』講談社現代新書)より	コミュニケーション／言語の境界
読解2	『なめとこ山の熊』(宮澤賢治著)	主人公小十郎の存在 ↓
読解3	「なめとこ山の熊」(小森陽一著『宮澤賢治講義』朝日選書)より	山と町の境界 近代前後の境界 人間と動物の境界
読解4	「東京タワー」(中沢新一著『アースバイダー』講談社ちくま評論入門)より	陸と海／天と地／生と死の境界
読解5	「言葉と言語」(石黒圭著『日本語は「空気」が決める 社会言語学入門』光文社新書)より	言葉と言語／方言と言語／多言語の境界
読解6	「おわりに—主導・境界線・政治—」(杉田敦著『境界線の政治学』岩波書店)より	国と国／内と外／マイノリティとマジョリティの境界
読解7	「〈わたし〉の社会的な輪郭」(鷺田清一『ひとはなぜ服を着るのか』ちくま文庫)より	人体と衣服／内面と外見／性別の境界

学生を観察した結果、学生たちはコース中盤で自ら「境界」というテーマを発見した。たとえば、宮澤賢治の「なめとこ山の熊」では、町と山という空間的「境界」、近代前と近代後という時間的「境界」に位置する主人公が描かれている。このテキストを読んだ数週間後に『日本語は「空気」が決める』を読んだ。ここでは方言と言語という「境界」、また二つの言語という「境界」に立つ多言語話者がテーマとなっている。またその後読んだ『境界線の政治学』の中には、恣意的に引かれた国境線によって生まれる様々な国際問題、差別の問題などが書かれている。これらのテキストに共通する「境界」というテーマを学生が自ら発見し、前に読んだテキストと関連づけたり、比較したりするようになった。多言語話者として「境界」に位置している自身のアイデンティティと関連づけて、自身の問題として読み物に向き合う学生もいた。読解活動を単なる受容ではなく、主体的な活動としてとらえることができたことは成果の一つであると思われる。

4. まとめ：考察および今後の課題

以上のトピックベースの読解活動からは一定の成果が見られた一方で、以下のような反省・課題も浮かび上がってきた。

第一に教材の難易度・内容・提示順序の妥当性の問題である。

まず、今回は教材選択に際してトピックを優先させてしまい、難易度についての検討が充分でなかったことが反省として挙げられる。特に今回 SJ2 で扱った教材は、全体として長さ・内容ともに SJ2 のレベルとしては難易度の高いものを選んでしまったという反省がある。

内容については、特に「過去」をテーマとして扱う場合には、歴史観に偏りがないようにする配慮が必要であると思われる。しかし日本の過去について学ぶ場合、歴史に関する教材には、選ぶ教員の歴史観が反映されてしまうことがある。例えば SJ2 で扱った「東と西の語る日本の歴史」は、著者の網野善彦氏の歴史観に触れてほしいという筆者自身の思いがあった。一方で、客観的な歴史事実を羅列するだけの読み物では、コンテキストに欠けてしまい、議論や思考を深めることができなくなってしまうという欠点もあるため、ある程度のコンテキストを持った読み物が望ましい。したがって歴史に関する教材については、一つの歴史観に偏ることなく、複数の意見、多角的な視点を提示するなどを考慮しつつ、慎重に選ぶ必要があると思われる。

さらに、今回のように設定したテーマのもとで複数テキストを読ませる場合、どのような順序でテキストを提示するのが適切であるのかが重要なポイントとなる。テキストの提示順が理解に大きな影響を与えるとの報告もあり（大村他，2001）、慎重に考える必要がある。

第二に、精読の必要性が課題として挙げられる。今回のようなトピック重視の授業では、丁寧に指示語や語彙を確認しながら読解を進めていくボトムアップ型の指導が行き届かなかったのではないかと、という反省がある。読み物のトピックに即して、自らの意見を述べたり議論を深めたりすることはできたが、実際のところ本文をきちんと正確に理解できたのか、ということを確認することができなかった。これまで海外やインターナショナルスクールで教育を受けてきた SJ の学生たちは、国際的感覚や創造性

を持ち合わせており、クリティカルな視点で読んだり、話したりすることに長けている。読解の内容が正確に理解できていなくても、一つの点に着目して想像力を働かせ、意見を述べたり、批判したり、議論したりすることは、彼らにとっては得意分野と言える。昨今、日本の教育で盛んに叫ばれているクリティカルリーディング、クリエイティブリーディングの素養を、彼らはある程度身につけてきているように思われる。一方で、一つ一つ丁寧に内容の理解を確認しながら読み進めていく精読の活動に対しては意欲的ではなく、指示語や語彙の意味などを聞くと、曖昧にしか答えられないということも多々あった。彼らの国際体験に裏付けられた国際感覚、創造的な視点、批判的思考力を活かしつつ、日本語の正確な読解力を習得するために精読活動をどのように取り入れていくかは、今後の大きな課題である。

以上の反省・課題を踏まえ、今後もトピックベースで共通テーマに即した複数テキストを読むという読解教育の可能性を探っていきたい。

注

1. これらの学生の他に、2016 年秋学期 SJ1 のみ履修した学生が 2 名、2016 年冬学期 SJ2 から履修した学生が 1 名、2017 春学期 SJ3 のみ履修した学生が 3 名いたが、本報告書では、2016 年秋学期 SJ1 から 2017 年春学期 SJ3 までを継続して履修した学生についてのみ報告する。
2. 「基礎コース」は、2018 年以降は開講されないこととなった。

参考文献

- 大村彰道他 (2001) 『文章理解の心理学』北大路書房
- 岡村郁子 (2017) 『異文化間を移動する子どもたち 帰国生の特性とキャリア意識』明石書店
- ポロック, デビッド・C 他 (加納もも他訳) (2010) 『サードカルチャーキッズ 他文化の間で生きる子どもたち』スリーエーネットワーク
- 小澤伊久美・武田知子 (2015) 「第一言語/継承日本語話者である大学生のための内容重視の日本語教育—カリキュラムデザインとコース運営上の課題—」母語継承語バイリンガル教育研究会 2016 年度研究大会デモンストレーション、2016 年 8 月 9 日、お茶の水女子大学
- ICU 日本語教育課程 (2015) 「2013 年度 JLP 新カリキュラム報告」『ICU 日本語教育研究』11、45-95

資料 1

特別日本語 2 読解 2 予習シート 提出日：12 月 13 日 名前 _____

読解 2 「東と西の語る日本の歴史」(網野善彦著 講談社学術文庫)

1. 次の漢字の読み方を書きなさい。

故郷	当座	電柱	質屋	単身赴任
違和感	否定	同様	痛感する	転向
土地柄	著書	祝い	地域	相違
契機	単一民族	通念	珍しい	系統
複合民族	雑種民族	範囲	学説	民俗学
律令国家	概説	祖先	構想	移住民
暗黙	前提	考慮	根底	気風

読む前に

- ① ^{じょうもん}縄文時代とはいつごろのことですか。
- ② ^{やよい}弥生時代というのはいつごろのことですか。
- ③ ^{こふん}古墳時代というのはいつごろのことですか。
- ④ 律令国家とは、何ですか。また、日本に律令国家が成立したのはいつごろのことですか。
- ⑤ 単一民族、複合民族、雑種民族とは、どんな意味ですか。日本人はどれにあてはまると思えますか。

読んだ後で

- 1 山梨県出身の筆者が、名古屋で経験した異文化とは、どんなものでしたか。
- 2 東日本と西日本の文化や習慣の違いについて、筆者はどんな例を挙げていますか。
- 3 23 ページの 5 行目「^{きょうつう}ほぼ共通した^{こうそう}構想」とは、どんな構想ですか。何と何が共通しているのですか。
- 4 23 ページ 9 – 10 行目「^{あんもく}暗黙の^{ぜんてい}前提」とありますが、何が「^{あんもく}暗黙の^{ぜんてい}前提」になっているのですか。

ディスカッション：以下の質問について考えてきてください

- 1 あなたの家庭では、お餅^{もち}の形は丸ですか。四角ですか。
お正月に食べるお雑煮^{ぞうじ}の汁はみそ汁ですか。すまし汁ですか。
中にはどんな具が入っていますか。
- 2 東日本と西日本で、食べ物、文化や習慣、生活様式、言葉の違いを感じたことがありますか。または、東と西にかぎらず、土地や地域によって、違いを感じることはありませんか。
- 3 読み物の内容と関連して、クラスメートとシェアしたい話題を考えてきてください。

